

## 意味空間における舞踊作品の部分と全体に関するイメージ

頭 川 昭 子・松 浦 義 行

### The images relating to the parts of a dance work and the whole in semantic space

Akiko ZUKAWA and Yoshiyuki MATSUURA

The purpose of this study was to clarify the relationships on images between the parts of a dance work and the whole. The problems were solved through analyzing characteristics of dance movements and investigating the images of the dance in semantic space. Six stimuli were composed of a dance work, 5 minutes and 5 parts of the dance, about 1 minute each. The dance piece created and performed by a professional dancer was filmed on a roll of 8 mm color film in July, 1985. Then, the contents of this film was divided into 5 parts taking the concept of the dance piece and length of each part into consideration.

In order to measure the images, the 46 semantic differential scales which were originally developed by authors were utilized. One hundred fourteen college students responded to 46 semantic differential scales in each of 6 different concepts as stimuli. Multivariate statistical analysis procedures were applied. As the results, the following inferences were derived;

1. Five parts of the dance work as stimuli were analyzed from four points of view such as variety of movements, level in space, width in space, and moving in time. As the outcomes, two characteristics that were opposite each other were found. The one involved various kinds of movements, higher level in space, and wider locomotion in space. The other did a few kinds of movements, lower level in space, and staying in space. The whole of the dance work found closer to the former one.

2. Five factors extracted were used for interpreting 6 stimuli. The factors were named as follows: lucidity, beauty, energy, harmoniousness, and flexibility.

3. As for distances between 6 stimuli in 5 dimensional semantic space, the whole of the dance work was imaged closer to various and energetic movements in the parts. It was suggested that the images of the whole of the dance work were affected by strongly the parts impressed.

4. Significant differences of images between stimuli were found in lucidity and energy dimensions between one and opposite groups. The whole of the dance work tended to be imaged more merry in "lucidity dimension", more exciting in "energy dimension", also the characteristics of movements were closer to various and energetic movements in the parts. However, significant differences were not found in harmonious dimension and flexibility dimension.

Therefore, it was found that the images of dance movements were quite affected by characteristics of the movements. In addition, the whole of a dance works were tended to be imaged more similar to the parts offered strong impression.

Hence, it is inferred that the strong relationships on images were found between parts of the dance work and the whole.

Key words : Dance, Images, Movement analysis, Factor analysis, Semantic differential method, and the parts of a dance work and the whole

## I. 緒 言

舞踊作品のイメージは、舞踊家の身体運動とそれに伴う衣装・音楽・照明・装置などを通して作者から観客に伝達される。作品の創作・構成過程において作者あるいは振付家は、体得してきた舞踊の知識や技術を通して、力動的な運動の時間的・空間的要因、舞踊家の表現技術の範囲、その他の付随的な要素を考慮しながら作品の意図を伝達しようとする。

舞踊の創作・構成活動は、創作者の主観や感覚に頼る場合が多い。創作された作品が上演された時、観客の共感を得たり、あるいは作者のひとりよがりになってしまうこともありうる。このような舞踊の伝達過程における作品の共感度の差異は、観客の舞踊に対する知識や経験の度合、その時代に生きる人々の要求内容による場合もある。しかし、作者の舞踊作品の構成に関しての客観的な理論的な知識の度合による問題も多い。例えば、主題と表現方法の一致、新奇性や独創性の程度、演者の表現能力、伴奏音や衣裳の選択、上演環境の効果などに関する作者の思考力が反映されると考えられよう。観客に多大の共感をもたらす舞踊作品を創造する芸術家達は、先天的な直感力に加えて、このような問題を常に意識しながら、作品の創作に望む態度を持っていると思われる。

舞踊作品の創作は、自己満足の作品から観客への伝達度の高い作品まで様々なレベルがある。本研究では、舞踊作品の効果を問題として研究を行なったが、小保内虎夫は、「芸術作品」(1957)の中で、芸術作品の効果とは、観客の眼や耳を楽しませたり、実生活に役立つという意味だけではなく、作品が作者自身の別の新しい創作を促進し、規制する力を持つことや、他人への影響を与え、発展させる能力を内包するものである<sup>1)</sup>と述べている。これは、ヴント (Wundt, W) の「目的の異質発生」、オルポート (Allport, G.W.) の「目的の機能的自律」などの理論に通じるものである<sup>2)</sup>。また、ランガー (Langer, S.K.) は、芸術作品の創作を生産的な仕事としての実用的創作品と区別して、「感覚とか、想像力を通して知覚でき

るように創作された表現形式<sup>3)</sup>として定義し、芸術家の創造する全ての作品を芸術作品と認めている。しかし、すぐれた作品の中には芸術としてのシンボルによって組み立てられた「生命移入」が客観化されている<sup>4)</sup>と、その価値の差異を分析している。筆者等はこのようなレベルの高い、すぐれた「芸術作品」の産出に接近する振付や指導に貢献するために、客観的・科学的に分析された舞踊構成の推論を提供しようとしてきた。

筆者等の「舞踊のイメージについての研究」

(1980年～1988年)は、舞踊を構成する要素、即ち舞踊の身体運動の時間的、空間的、集団的要因やその性質などについて、意味差別法を用いて行われた。その結果、情意的意味空間における情緒性、活動性、調和性、審美性、柔軟性、重量性などの因子が多変量統計解析法を用いて抽出され、舞踊のイメージが分析された。

本研究においては、舞踊作品を構成する上で作品の部分が作品全体のイメージとどのように関連するのかを明確にしようとした。舞踊における作品の部分は、運動の種類、運動の時間的・空間的要因などで構成されていると考えられるが、本研究における作品の部分は作品の内容と時間の長さを考慮して分割された。異なるイメージを持つ作品の部分は、まとまった作品としてイメージされる時、印象は平均化されたり、印象の強力な部分が心に残ったりすると考えられる。また、どのような部分が全体のイメージに影響するのかについては、作品の構成・創作のための手掛かりになるものと思われる。

実験的な手続の中では選択される作品にも限界があるが、作品を構成する幾つかの部分が、異なるイメージを感じさせると考えられた1作品を選択し、その連続運動を分析して、意味空間における作品の部分と全体のイメージを推察した結果を報告する。

### 1. 問題の設定

本研究は、舞踊作品の全体のイメージは、作品を構成する部分とどのように関連してイメージされるかを、意味空間において推察することを目的

とする。

1) 刺激の特徴は、連続舞踊運動を運動の種類、空間的要因、時間的要因に分析することによって明確にされる。

2) 刺激に対するイメージを解釈するために、因子分析法、重相関分析法を用いて因子数と意味が決定され、意味空間が明確にされる。

3) 舞踊作品の部分と全体としての6刺激間のイメージの差異が明確にされる。

4) 舞踊作品の全体のイメージは、作品の部分のイメージとどのように関連があるかについて、意味空間において明確にされる。

## 2. 仮説

1) 刺激には各々の特徴が見られる。

2) 舞踊作品の部分と全体としての連続運動の6刺激に関して、特徴のある因子が抽出される。

3) 舞踊作品の部分としての5刺激間のイメージには、差異が見られる。

4) 舞踊作品の全体のイメージは、作品の部分の平均化されたものではない。

## 3. 研究の限界

1) 刺激として約5分間の舞踊作品が用いられ、8mmカラーフィルムに収録された。この舞踊作品は、作品の内容を考慮しながら約1分間毎の部分に分けられた。

2) 作品の特徴はビデオテープによって分析された。

3) 作品の流れに沿って配列された刺激を用いた実験は、異なる大学生を対象に行なわれた。

4) 問題解決のために、多変量統計解析法が用いられた。

## 4. 研究の立場

1) 選択された作品の芸術的価値を検討するものではなく、作品の中に含まれる部分が全体とどのように関連してイメージされるかを検討するものである。

2) 実験における調査対象者の個々のイメージの差異を検討するものではなく、多数の対象者のイメージをもとにして、刺激間のイメージを検討するものである。

3) イメージは、筆者等によって抽出された46尺度で構成された意味差別法を用いて測定されたが、測定された意味は意味の全てではなく、情意的意味に限定される。

## 5. 研究の独自性

本研究の独自性は、舞踊作品のどのような部分が作品全体のイメージに影響を与えるのかを検討するために、作品に含まれる運動の特徴を分析し、意味空間におけるイメージとの関連で考察した点にある。

## II. 方法

### 1. 刺激材料

刺激材料は、1名の専門舞踊家によって創作され、踊られた、約5分間の舞踊作品(「サンバ」1984年5月東横ホール初演)と5つの部分で構成された。作品は1985年7月25日に筑波大学体育館ダンス場で踊られ、同時に、8mmカラーフィルムに収録された。更に、それはフィルムにダビングされ、内容を考慮された各々約1分間の5つの部分に分けられた。6種類の刺激は、作品の流れに沿って5種類の部分と全作品に配列された。

### 2. 資料収集

資料の収集のために、意味差別法が用いられた。著者らによって1980年に構成された舞踊のイメージの測定のための46個の尺度は、両極性を持つ形容詞対の意味尺度に、副詞の“非常に”、“かなり”、“どちらでもない”の言葉によって5段階がつけられ、刺激に対する評定の意味差を判別する調査法である。1986年6月に、筑波大学学生とワタナベ学園社会体育専門学校の114名(男子87名、女子27名)の6刺激に反応した評定値が資料とされた。

### 3. 資料の整理

資料の整理は、次の手順によって行なわれた。

#### 1) 刺激の特徴の運動分析

(1) 選択された舞踊作品の部分と全体の連続運動としての6刺激は、8mmカラーフィルムからビデオテープ(Beta)にダビングされ、同時に1/100秒の時間がテープに記録され、分析された。

(2) 刺激の特徴は、運動動作の種類、垂直空間の高さ、水平空間的広さ、時間的動きの4視点から分析された。運動動作の種類は、静止、非移動、平衡、移動動作の蹴る、倒れる、歩く、回転する、跳ぶなどの8種類に分類された。さらに、垂直空間の高さは身体動作の高低、水平空間的広さは空間移動、時間的動きは身体動作の静止と動きの各々対比的要因に分類し、使用時間とパーセントが出された。

#### 2) 意味空間におけるイメージの分析

(1) 6刺激に関しての5段階評定の尺度値をもとにして、因子分析が行なわれた。得られた資料をもとに、46尺度相互間の相関係数をピアソンの方法で求め、Z変換を経て平均相関行列を出し、これに主因子解法を適用し、固有値1.0以上の因子を取り上げ、Normal varimax 基準による直交回転を行い、多因子解が出された。各因子は、0.4以上の負荷量を持つ抽出尺度でまとめられ、貢献度の高い順に配列され、番号が付けられた。

(2) 各因子の中で、多数の尺度の意味の方向と異なる尺度の意味尺度は変更され、因子負荷量の符号の一致が考慮され、因子分析の過程は繰り返えされ、最終的な因子が決定された。

(3) 刺激の意味の差異を推測するために用いられる意味次元とその意味方向は、重相関分析を用いて選択された。

(4) 刺激間の意味の差異を明確にするために、意味空間における刺激間の距離はユークリッドの距離によって算出され、意味空間における座標は、各刺激に対する被験者の尺度の反応値と因子分析の結果をもとにして決定され、意味スコアは、その平均座標として数値を求められた。

(5) 2刺激間の関係を考察するために、多次元意味空間における刺激間と各次元における距離が算出され、各次元の距離の有意差はt検定を用いて判定され、イメージの差異が考察された。

### III. 研究結果とその考察

#### 1. 刺激の特徴

本研究のために選択された舞踊作品の部分と全体としての6刺激の特徴を、運動動作の種類、垂直空間の高さ、水平空間的広さ、時間的動きの視点から分析した結果は、表1、2と図1、2、3に示された。作品の部分間の差異について見ると、運動動作の種類は刺激1が一番少なく、刺激3と4が一番多く見られた。垂直空間の高さの低位、水平空間的広さのその場、時間的動きの静止は、刺激1が一番多く、垂直空間の高さの高位、水平空間的広さの移動は、刺激3が多く見られ、時間的動きの動きは、刺激5が一番多く見られた。また、作品全体の特徴は部分の平均値として表わされたが、垂直空間の高さでは、刺激4、5に近く、水平空間的広さでは、刺激2、4、5に近く見られ、時間的動きでは刺激4に近く見られた。

Table 1 Time and characteristics of stimuli for "Parts of a dance work and the whole"

stimuli	time (sec.)	characteristics of each sequential movement (sec. & %)							
		stopping	staying	balancing	kicking	falling	walking	turning	jumping
1	56 (part)	14(25%)	42(75%)						
2	57 (part)	4(7%)	24(42%)	10(18%)			19(33%)		
3	58 (part)	3(5%)	4(7%)	15(26%)	3(5%)		22(38%)	6(10%)	5(9%)
4	58 (part)	6(10%)	23(40%)	7(12%)		2(3%)	5(9%)	8(14%)	7(12%)
5	66 (part)		41(62%)	1(2%)	4(6%)		7(11%)	13(20%)	
6	295 (part)	27(9%)	134(45%)	33(11%)	7(2%)	2(1%)	53(18%)	27(9%)	12(4%)

Table 2 Time and space of stimuli for "Parts of a dance work and the whole"

stimuli time (sec.)	level in space		width in space		moving in time	
	lower & higher		staying & locomotion		stopping & moving	
1 56 (part)	56(100%)	0(0%)	56(100%)	0(0%)	14(25%)	42(75%)
2 57 (part)	6(11%)	51(89%)	38(67%)	19(33%)	4(7%)	53(93%)
3 58 (part)	0(0%)	58(100%)	22(38%)	36(62%)	3(5%)	55(95%)
4 58 (part)	15(26%)	43(74%)	36(62%)	22(38%)	6(10%)	52(90%)
5 66 (part)	18(27%)	48(73%)	42(64%)	24(36%)	0(0%)	66(100%)
6 295 (whole)	95(32%)	200(68%)	194(66%)	101(34%)	27(9%)	268(91%)

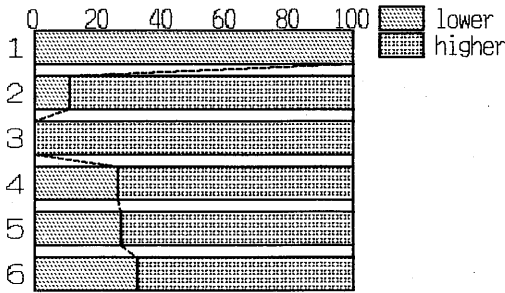


Fig. 1 Level in space of stimuli

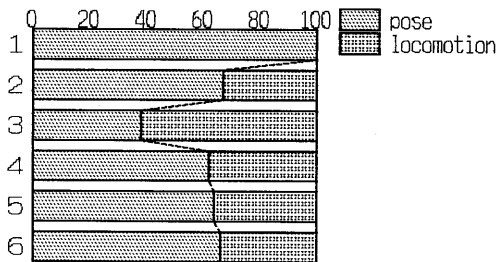


Fig. 2 Width in space of stimuli

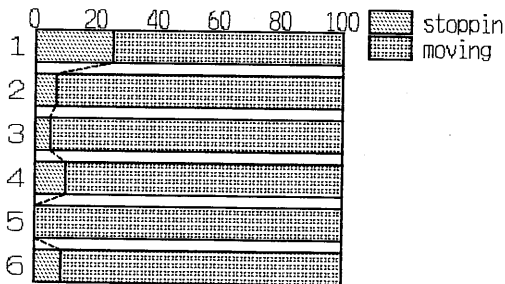


Fig. 3 Moving in time of stimuli

以上、本研究における刺激の運動動作の種類、垂直空間の高さ、水平空間的広さ、時間的動きに関する特徴を見ると、刺激1は他の刺激とは異なり、刺激3との対比が多く見られた。また、作品全体は刺激4との近似が多く見られたと言える。

1. 構成尺度と意味次元

1) 最終決定された多因子解は、最終回転数14回、最終ヴァリマックス基準960.0935の結果、10因子が抽出された。因子の貢献量は、最大値

Table 3 Contribution in each factor for "Parts of a dance work and the whole"

	1	2	3	4
F 1	5.944	12.922	12.922	23.686
F 2	3.416	7.426	20.348	13.613
F 3	3.211	6.981	27.329	12.797
F 4	2.574	5.595	32.924	10.256
F 5	2.345	5.097	38.021	9.342
F 6	1.969	4.280	42.301	7.845
F 7	1.547	3.363	45.664	6.164
F 8	1.508	3.278	48.942	6.009
F 9	1.355	2.945	51.887	5.398
F 10	1.227	2.668	54.555	4.890

- 1 : Amount of contribution
- 2 : Degree of contribution (%)
- 3 : Degree of cumulative contribution (%)
- 4 : Degree of common contribution (%)

5.994, 最小値1.227であり、全分散に対する累積貢献度は、54.555パーセントであった。多因子解10因子の中から、重相関分析の結果に基づいて選択された5因子は、全分散に対する累積貢献量の中の38.021%を示した (Table 3参照)。

2) 各因子のために抽出された尺度を解釈することによって1) 明快性, 2) 審美性, 3) 力動性, 4) 調和性, 5) 弾力性と命名された (Table 4 & 5参照)。

即ち、第1因子は、にぎやか—さびしい, うれしい—悲しい, 明るい—暗い, 面白い—つまらない, 楽しい—苦しい, 愉快な—不快な6尺度で構成され、人間感情の本能的な衝動や基本的な感性の現われを示す情緒性の中でも快感を伴う繁枯や明暗に関連の高い尺度であるため、明快性因子と命名した。この構成尺度は、「意味空間における舞踊の身体空間的向性に関するイメージ (その2)」(1988)で抽出された尺度と全く同じであった。第2因子は、上品な—下品な, 清らかな—不潔な, 美しい—みにくい, 良い—悪い, かわいい—にくいの5尺度で構成され、対象に対する美意識に関する尺度であるため、審美性因子と命名した。第3因子は、派手な—地味な, 大きい—小さい, 広い—狭い, 高い—低い, 激しい—静かの5尺度で構成され、対象に対する感情活動のエネルギーの量や質と空間に関する尺度であるため、力動性と命名した。第4因子は、安定した—不安定

Table 4 Naming of factors, selected scales and meaning of signs for "Parts of a dance work and the whole"

Selected scales	+	-
F 1 Lucidity merry-lonely, glad-sad, light-dark, interested-uninterested, joyful-distressful and pleasant-unpleasant	merry	lonely
F 2 Beauty decent-indecnt, clean-dierty, beautiful-ugly, good-bad and loving-hating	beautiful	ugly
F 3 Energy exuberant-sober, large-small, wide-narrow, high-low and exciting-calm	active	passive
F 4 Harmoniousness stable-shaky, accurate-inaccurate, delicate-rugged and coordinated-chaotic	harmonious	inharmonioou
F 5 Flexibility straight-curved, hard-soft, regular-irregular and masculine-feminine	stiff	flexible

な、正確な—不正確な、細かい—粗い、まとまった—ばらばらなの4尺度で構成され、対象の均衡や不均衡に関する尺度であるため、調和性と命名した。第5因子は、直線的—曲線的、かたい—やわらかい、規則的—不規則的の3尺度で構成され、対象に内在する潜在的な硬直感や柔軟感に関する尺度であるため、弾力性因子と命名した。

以上の5因子は、1980年から1988年の著者らの過去の研究結果に出現した因子を含むものである。この5因子をもとに、舞踊作品の部分と全体のイメージが推察された。

2. 意味空間における舞踊作品の部分と全体のイメージ

抽出された5意味次元をもとに、6刺激間の距離を分析した結果と考察は次の様になった。

1) 5次元意味空間における刺激間のイメージ

5次元意味空間における6刺激間のイメージの距離をユークリッドの距離で算出した結果、2刺激間の距離の差異の中で、最大値は刺激1と3の作品の部分間のイメージであり、最小値は刺激4と6の作品の部分と全体のイメージである (Table 6参照)。

各刺激における2刺激間の距離の最大値と最小値を調べると、最小値では、刺激4と3、5、6

の距離が短く、最大値では、刺激1と3、4、5、6の距離が長く示され、刺激1と刺激3、4、5、6の2グループに差異が見られたと言える (Fig. 4)。

即ち、作品の部分間のイメージは、多様な運動で構成され、空間的高さや移動が多く、時間的に長く動いた刺激4と3、5間に近似が見られ、運動動作の種類が少なく、空間的には低くまたその場の運動で構成された刺激1との間に差異が見ら

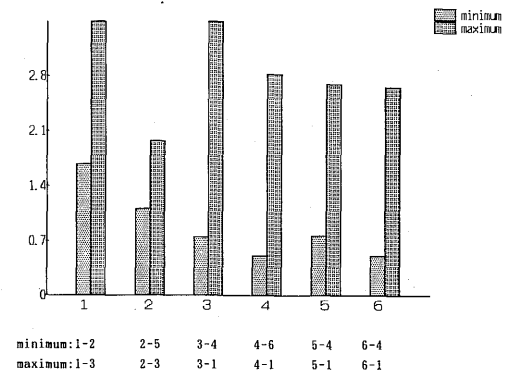


Fig. 4 A minimum distance between two stimuli in each stimuli and a maximum distance

Table 5 Factor pattern matrix for “Parts of a dance work and the whole”

Scales	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5
1 wide-narrow			<u>0.603</u>		
2 cruel-kind					
3 hot-cold	-0.412				
4 stable-shaky				<u>-0.715</u>	
5 delicate-rugged				<u>-0.592</u>	
6 exciting-calm			<u>0.537</u>		
7 large-small			<u>0.643</u>		
8 serious-funny					
9 exuberant-sober	0.418		<u>0.654</u>		
10 natural-artificial		0.492			
11 high-low			<u>0.587</u>		
12 decent-indecant		<u>0.689</u>			
13 young-old			0.486		
14 beautiful-ugly		<u>0.644</u>			
15 hard-easy					
16 light-heavy					
17 accurate-inaccurate				<u>-0.668</u>	
18 many-a few					
19 pleasant-unpleasant	<u>0.640</u>				
20 deep-shallow					
21 coordinated-chaotic				<u>-0.573</u>	
22 near-far					
23 active-passive	0.423				
24 clean-dirty		<u>0.657</u>			
25 short-long					
26 strong-weak	0.456				
27 like-hate	0.550	0.448			
28 different-same					
29 glad-sad	0.745				
30 strained-released					
31 masculine-feminine					<u>0.421</u>
32 light-dark	<u>0.742</u>				
33 merry-lonely	<u>0.746</u>				
34 individual-common	0.430				
35 good-bad		<u>0.639</u>			
36 fresh-stale	0.511				
37 fast-slow	0.436				
38 complex-simple					
39 loving-hating	0.409	<u>0.529</u>			
40 thin-thick					
41 joyful-distressful	<u>0.680</u>				
42 interested-uninterested	<u>0.708</u>				
43 straight-curved					<u>0.754</u>
44 regular-irregular					<u>0.471</u>
45 hard-soft					<u>0.716</u>
46 sharp-dull					

Note: The first down numbers stand for the number of stimuli

Table 6 Distances between two stimuli in five semantic dimensions for “Parts of a dance work and the whole”

	1	2	3	4	5
2	1.67298	0.0			
3	<u>3.48302</u>	1.96215	0.0		
4	2.81521	1.31087	0.74472	0.0	
5	2.68913	1.10324	1.03645	0.76156	0.0
6	2.65182	1.17198	1.04390	<u>0.50568</u>	0.78178

Note: The numbers stand for the number of stimuli

れた。また、作品全体と部分間のイメージの差異は刺激1との間にみられ、刺激4とは近似的に見られた。これは、刺激6の作品全体のイメージは、運動の種類数が少なく、静止やその場の低い動きを中心として構成された刺激1より、多様な運動で、空間的・時間的に高く・広く・活動的に構成された刺激4が動きの特徴も近似的であり、また、作品の特徴を強力に反映したために、印象深く受け取られたものであると考えられる。

2) 意味空間における各意味次元毎の刺激間のイメージ

各次元における6刺激の意味スコアの中で最大の値と最小値を調べると、次元1と次元3において、いずれも刺激3と刺激1が対比的な距離を示した。次元2と4では、刺激6に特徴が見られたが、その他の次元における共通点は見られなかった (Table 7参照)。

各次元における6刺激の意味スコアの方角を調べると、次元1と次元3では、刺激1、2と刺激3、4、5、6は対比的な意味方向を示した。

次元4では、刺激1、6と刺激2、5間の意味の方向は対比的であり、次元5では、刺激1、2、4と刺激3、5、6間の意味の方向は対比的に示された (Table 8 & Fig. 5)。

各次元における刺激間のtテストの結果を調べると、刺激間のイメージの有意差は、次元1、3、5、4の順に多く見られ、次元2には全く見られなかった。また、次元1と3においては、刺激4、

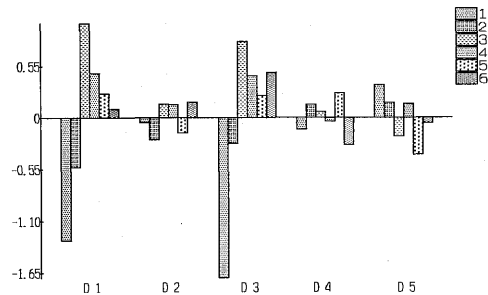


Fig. 5 Semantic scores of six stimuli in five dimensions for “Parts of a dance work and the whole”

Table 7 Semantic scores in each dimension for “Parts of a dance work and the whole”

	D 1	D 2	D 3	D 4	D 5
1	-1.31248	-0.05167	-1.70656	-0.13200	0.34796
2	-0.53032	-0.23759	-0.27667	0.13954	0.16305
3	<u>1.01063</u>	0.14631	<u>0.81449</u>	0.06569	-0.20033
4	0.47820	0.14293	0.44623	-0.04415	0.15099
5	0.25729	-0.16535	0.23757	0.26215	-0.39562
6	0.09667	<u>0.16535</u>	0.48492	-0.29122	-0.06605

Note: The first down numbers stand for the number of stimuli



Table 8 Results of t-test between two stimuli in each dimension for "Parts of a dance and the whole"

		1	2	3	4	5
D 1	2	***				
	3	***	***			
	4	***	***	*		
	5	***	***	**		
	6	***	**	***		
D 2	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
D 3	2	***				
	3	***	***			
	4	***	***	*		
	5	***	**	***		
	6	***	***			
D 4	2					
	3					
	4					
	5	*				
	6		*			**
D 5	2					
	3	**	*			
	4			*		
	5	***	**		**	
	6	*				

Note: Numbers stand for stimuli

\* P < 0.05

\*\* P < 0.01

\*\*\* P < 0.001

5, 6間の有意差は見られなかった。次元4では、刺激1と5, 刺激2, 5と6間に有意差が見られた (Table 7参照)。

有意差の多く見られた次元1と次元3の2次元意味空間における刺激間のプロフィール (Fig. 6参照) 上では、刺激1と刺激2と刺激3, 4, 5, 6間に差異が見られ、刺激1と刺激3のイメージの距離の差異は大きく示された。

以上をまとめると、意味次元毎の6刺激間の差異は情緒性、力動性、弾力性、調和性次元の順に多く、審美性次元における刺激間の差異はまったく見られなかった。また、情緒性、力動性次元では、作品の部分間のイメージは、刺激1と3は対

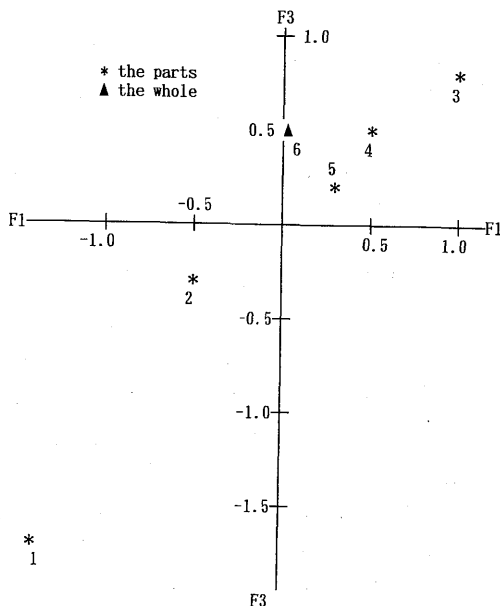


Fig. 6 Semantic profile of "Parts of a dance work and the whole in two dimensions"

比的に受け取られ、運動動作の種類が少なく、静止やその場での低位の運動で構成された刺激1は暗然感や沈静感のイメージで受け取られ、運動動作の種類が多く、空間的には高位で移動が多く、時間的にはほとんど動いていた刺激3は、明快感や活動感がイメージされたと言える。また、作品全体のイメージは、幾分明快感や活動感の方向にあり、跳躍や回転などの多様な運動で、移動の多い運動で構成された、刺激4, 5と近似的なイメージで受け取られたと言える。弾力性、調和性次元では、全体のイメージは幾分柔軟感や不協和感の方向にあり、本研究での運動分析の結果から見られた刺激の特徴とは、特に関連付けることは出来なかった。

#### IV. 結 論

本研究は、舞踊作品の全体のイメージは、作品を構成する部分とどのように関連してイメージされるかを、意味空間において推察することを目的とした。刺激材料として約5分間の1作品が選択され、各約1分間の5つの部分に分けられた作品の部分と全体の6刺激が用いられた。8mmカラーフィルムに収録された刺激の運動の特徴が分析さ

れた。また、刺激に対するイメージは、大学生を対象に意味差別法を用いて調査され、得られた資料は多変量統計解析の手法を用いて整理され次のように考察された。

1. 刺激の特徴を運動動作の種類、垂直空間の高さ、水平空間的広さ、時間的動きの視点から見ると、作品の部分間には対比的特徴が見られた。また、作品全体には多様な運動、空間の高さや広さのある時間的にも多く動く部分との近似が多く見られた。

2. 多因子解から5因子が抽出され、明快性、審美性、力動性、調和性、弾力性と命名され、本研究の特性を表わした因子であると考えられる。

3. 5次元意味空間における刺激間の距離の差異を考察すると、舞踊作品の部分間のイメージには近似や差異が見られたが、作品全体のイメージは、部分との差異性よりも近似性の方が多くみられ、近似的な部分が作品の特徴を強力に反映したものであると考えられる。

4. 意味次元毎の作品の全体のイメージは、有意差の多くみられた情緒性、活動性次元では、暗然感や沈静感よりも明快感や活動感をイメージさせる作品の部分の方向に近似し、多様な運動の種類、空間の高さや広さ、時間的動きの多い運動特徴と関連付けられた。しかし、調和性次元、弾力性次元におけるイメージは、今回の運動分析法とは関連付けられなかった。この点は今後の研究に委ねたい。

以上のことから、意味空間における舞踊作品の部分の運動特徴とイメージの関連が明確になり、特に、明快性次元や活動性次元のなかで舞踊作品の全体は印象深い部分のイメージと近似的にイメージされたと推察出来る。このような結果を基にして、舞踊作品の構成において作品全体のイメージの中で強力に印象づけられる部分は、どのような動きや、音楽、衣裳、装置のなかに、更に検討していく必要があると考える。

#### 引用文献

- 1) 小保内虎夫, 芸術作品, 芸術心理学講座(全5巻)第2巻, 小保内虎夫(編), 中山書店, 1957, p. 3.
- 2) 同上
- 3) Langer, Sussanne k., *Problems of Art*, Charles Scribner's Son: New York, 1957, p. 17.

- 4) 同上, p. 72.

#### 参考文献

- 1) H'Doubler, Margaret N., *The Dance: a creative art experience*, 2nd ed., University of Wisconsin Press: Mdison, 1957.
- 2) Humphrey, Doris, *The Art of Making Dances*, Grove Press, Inc.: New York, 1959.
- 3) 岩下豊彦, オスグッドの意味論とSD法, 川島書店, 1979.
- 4) Langer, Sussanne k., *Problems of Art*, Charles Scribner's Son: New York, 1957.
- 5) 小保内虎夫, 芸術作品, 芸術心理学講座(全5巻)第2巻, 小保内虎夫(編), 中山書店, 1957.
- 6) 外林大作その他3名編, 誠信心理学辞典, 誠信書房, 1981(第1刷), 1987(第7刷).
- 7) 田中靖政, 「意味の測定と情緒的意味体系に関する諸研究」, 心理学評論, 8-12, 1964.
- 8) 吉田正昭, 「情意実験法」, 宇阪良二・大山正(編), 心理学研究法 実験III, 第4巻, 1973.
- 9) 頭川昭子, 松浦義行, 川口千代, 「意味空間における舞踊のイメージ」, 体育学研究, 24-4, 1980.
- 10) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における舞踊のイメージ—舞踊における音の効果」, 筑波大学体育科学系紀要第4巻, 1981.
- 11) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における舞踊イメージ—ダンス・パフォーマンスにおける集団の大きさ」, 筑波大学体育科学系紀要, 第5巻, 1982.
- 12) Zukawa, Akiko, "The Images of Dance Affected by Movement Rhythm Patterns in Semantic Space", *Health & Sport Science*, The University of Tsukuba, 8th, 1985.
- 13) 頭川昭子, 松浦義行, 若松美黄, 「意味空間において Simple locomotive dance movements に影響をうける舞踊のイメージ」, 大学体育研究, 第7号, 1985.
- 14) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における運動パターンに関する舞踊のイメージ」, 筑波大学体育科学系紀要, 第9巻, 1986.
- 15) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における舞踊のイメージ—音のリズムパターンの効果」, 筑波大学体育科学系運動学研究, 第2巻, 1986.
- 16) Zukawa, Akiko, and Matsuura, Yoshiyuki, "The Images of Dance Relating to Rhythm Patterns of Sound and Movements in Semantic Space.", 1986 Asian Games Scientific Congress Proceedings, 1987.
- 17) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における舞踊の身体空間的向性に関するイメージ(その1)」, 筑波大学体育科学系紀要, 第10巻, 1987.

- 18) 頭川昭子, 松浦義行「意味空間における舞踊の身体空間的向性に関するイメージ (その2)」, 筑波大学体育科学系紀要, 第11巻, 1988.